

津軽文化 英語と日本語で

弘前

津軽地方の文化を国内外に発信しようと、弘前大学国際連携本部のサワタ・ハンナ・シヨイ准教授が編集・翻訳を担当した「日本語と英語で読む津軽の文化遺産」が、弘前大学出版会から刊行された。津軽塗やねぶた祭、津軽三味線、こぎん刺しなど、多彩な地域文化を、振り仮名付きの日本語と簡明な英語で紹介している。

サワタ弘大准教授 編集・翻訳



刊行された書籍を手に「豊かな津軽の文化を知ってもらいたい」と語るサワタ准教授

「分かりやすい」書籍刊行

弘大教員や歴史民俗の研究者ら10人が、それぞれの専門分野から地域の文化を解説。弘大の高橋憲人助教は、津軽塗について「何度も漆を塗り重ねて研ぎ出すことで複雑で奥行きのある模様を生み出す伝統工芸」と紹介している。

県立郷土館の小山隆秀学芸課長は「ねぶたは、武者絵を描いた扇形の灯籠が城下町を巡る夏の行事で、勇壮なかけ声やはやしとともに地域の結束や歴史を今に伝える祭り」と位置付けた。弘前市文化財課の小石川透課長は、大石武学流の日本庭園について、津軽の自然と調和した景観美を特徴とする文化と解説した。

サワタ准教授は「津軽の文化が外国語であまり発信されていない現状を踏まえ、海外の人や留学生にも分かりやすく伝えることを目的に編集した」とし「津軽への訪問客やおもてなしをする人たちにとっても本書が一助になれば」と話した。

B5変形判、約300頁。価格は2700円(税別)。県内書店やオンラインで販売している。

※この記事は東奥日報社の提供です。

[問合せ先] 弘前大学出版会

hupress@hirosaki-u.ac.jp

この画像は、当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。